

うめきた 2 期みどりとイノベーション融合拠点形成推進協議会 設立記念シンポジウム 実施概要

1. 開催日時：平成29年8月2日（水）14：30～17：30
2. 開催場所：ナレッジキャピタルタワー カンファレンスルーム C01・C02（本会場）、
C03（サテライト会場）
3. 参加者数：254 名
4. 実施概要：以下のとおり

(a) 開会挨拶

- ・うめきた 2 期みどりとイノベーションの融合拠点形成推進協議会 代表 関総一郎（公益社団法人 関西経済連合会 専務理事）



(b) 来賓ご挨拶

- ・文部科学省 大臣官房審議官（科学技術・学術政策局担当）信濃正範氏
- ・経済産業省 大臣官房審議官（産業技術環境局担当）佐藤文一氏



(c) 基調講演

- ・国立大学法人大阪大学 総長 西尾章治郎先生により「大学から「うめきた 2 期」へと展開する共創イノベーション」と題した基調講演を行った。



(以下基調講演概要)

- ・社会の課題の複雑化、産業構造の大きな変化のなか、「産学連携」の在り方も変わっていく。社会と大学が包括的に深く関与しながら、課題探求や基礎研究の段階からともに考え、新しい「知」を創り出す、「産学共創」が重要。
- ・社会の多様なステークホルダーの交わりによって今までにない商品、サービス、人材などを生み出す共創活動の場を形成し、共創を推進する拠点機能を大学からうめきたの地に展開すべき。
- ・「みどり」の役割については、大阪の新たなシンボルとするだけでなく、自然災害への強靱性といった都市機能も持つべき。イノベーションの芽を育む「みどり」とは何なのか、みんなで考えることも共創の第一歩。
- ・大阪は不健康な期間の長さ、また健康予防に対する意識が全国最低レベル。この状況を変えるには社会寿命の延伸に取り組むべき。このようなさまざまなステークホルダーが参画するプロジェクトはうめきたでこそ展開すべき。関西の各大学が参画しより強力なプロジェクトにすることが重要。関西の社会寿命延伸技術の開発と社会実証の加速による地域経済活性化が 2025 年に大阪が夢洲でめざす大きな国際イベントにつながると考える。

(d) パネルディスカッション

・コーディネータとして㈱ソフィアバンク代表 藤沢久美氏、パネリストとして文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課長 坂本修一氏、経済産業省 大臣官房審議官 佐藤文一氏、大阪大学 理事・副学長 八木康史先生、㈱ベータカリスト 代表取締役 春田真氏、大阪市 都市計画局長 川田均氏により「うめきた 2 期を核としたイノベーション・エコシステムの構築を目指して」と題したパネルディスカッションを実施した。



(以下パネルディスカッション概要)

- ・八木先生から、うめきた 2 期中核機能のビジョンについて説明があったのち、坂本氏、佐藤氏から、うめきた 2 期へ寄せる期待についてコメントがあった。
- ・パネルディスカッションでは、「ビッグデータの取り扱い」、「みどりの空間をどう生かしていくか」、「うめきた 2 期のコンセプトを実現するプロデューサー」等について活発な議論が行われた。

(e) 閉会挨拶

・うめきた 2 期みどりとイノベーションの融合拠点形成推進協議会 副代表 児玉達樹（大阪商工会議所 常務理事）



以上